

公共事業再評価調書

整理番号 H16 - 25

担当部課室名	県土整備部 港湾空港課	電話番号	017 - 734 - 9676
		E-MAIL	kowan@ags.pref.aomori.jp

再評価実施要件	未着工 長期継続 (年) 再評価後 (5 年) その他 ()
---------	-----------------------------------

1 事業概要

事業種別	港湾整備事業	事業主体	県 市町村 その他 ()					
事業名	仏ヶ浦港改修(地方)事業	地区名等	長後 市町村名 佐井村					
事業方法	国庫補助 県単独	財源・負担区分	国40% 県47.5% 市町村12.5% その他 %					
採択年度	平成3年度 (用地着手 年度 / 工事着手 平成6 年度)							
終了予定年度	平成33年度 (年 月計画変更 当初計画時 年度)							
事業目的	防波堤、物揚場、歩道等を整備することにより、下北半島仏ヶ浦観光における観光船の航行安全性の向上、乗降客の利便性向上を図るものである。							
主な内容	防波堤 延長L=100.0m、物揚場 延長L=90.0m、泊地 面積A=1,350.0㎡ 体積V=2,050.0m ³ 道路(歩道)延長L=105.0m							
事業費	再評価時総事業費 3,078 百万円 (単位:百万円)							
		~13年度	14年度	15年度	16年度	小計	17年度~	合計
	計画 (うち用地費) 年月変更	()	()	()	()	1,334 (0)	1,744 ()	3,078 (0)
実績 (うち用地費)	844 ()	90 ()	80 ()	30 ()	1,044 (0)	2,034 ()	3,078 (0)	

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗 33.9% [/] () % [/]	年次計画に対する進捗 78.3% [/] () % [/]
	主要工種毎割合 (事業費)	防波堤(2,365百万円)	18.6%	60.3%
		物揚場(552百万円)	80.1%	100%
		泊地(69百万円)	100.0%	100%
		道路(歩道)(92.4百万円)	100.0%	100%
説明	本プロジェクトで整備すべき施設のうち、泊地、道路(歩道)については完了しており、また、物揚場も平成9年に計画延長90mの内30mが完成し暫定供用が開始された。平成13年までに70mが完成しており、残る20mについては平成24年の整備完了を予定している。防波堤については進捗率18.6%であるが、平成33年に整備を完了する予定である。			
問題点・解決見込み	-			
事業効果発現状況	平成9(1997)年に物揚場が暫定供用開始している。供用前は年平均51,263人であったものが、供用後の平成10年から平成15年の平均では64,119人と約25%増加している。			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	〔全国の評価〕 仏ヶ浦は、下北半島西部の中央部に位置し、およそ2kmにわたる海岸線に白緑色の凝灰岩が長年の風雨と荒波によって浸食され、仏像を思わせる奇岩が連なり立っており、周囲の風景と相まって極めて奇観となっていることから、昭和16年文部省名勝天然記念物及び昭和43年下北半島国定公園に指定などにより、観光面が大きくクローズアップされ、県内外からの観光客は年々増加している。観光船により訪れる観光客も年々増加しており、観光船の航行安全性の向上、乗降客の利便性向上を図るための施設整備が求められている。	〔県内の評価〕 下北半島は仏ヶ浦の他、恐山、薬研温泉、大間崎等観光資源が豊かであるため、青森県内においても旅行者には人気が高い地域である。仏ヶ浦は、下北半島で唯一定期観光船が就航しており、年々乗降客が増加している。このことから、観光船の航行安全性の向上、乗降客の利便性向上を図るための施設整備が求められている。
	当地区における評価	下北半島来訪者数は年々増加しており、観光による地域の活性化に寄与している。仏ヶ浦についても、平成4年~平成8年の年平均来訪者は95,838人、平成9年~平成13年平均で108,549人と着実に観光客数を伸ばしており、観光船の航行安全性の向上、乗降客の利便性向上のための施設整備が求められている。	
必要性	・ 仏ヶ浦港は青森県が管理する地方港湾であることから、事業主体は青森県である。 ・ 観光客の増加に対応し、港内の静穏度を確保し、観光船の航行安全性の向上を図るとともに、乗降客の利便性向上を図るため、当事業を行う必要がある。		(a) ・ b
適時性	観光船利用旅客数も増えていることから、港内静穏度を確保し、観光船の航行安全性向上とともに、乗降客の利便性向上を図るため、当事業を行う必要がある。		(a) ・ b
地元の推進体制等	・ 地元及び近隣自治体より、当該施設整備の要望がある。 ・ 観光船運行業者からも事業に対する理解を得ている。		(a) ・ b
効率性	-		

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	再評価時	再々評価時	増 減
費用項目 (C)	(1) 建設費	百万円	2,505 百万円	0 百万円
	(2)	百万円	百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	- 百万円	2,505 百万円	0 百万円
便益項目 (B)	(1) 交流・レク機会増加便益	百万円	3,001 百万円	0 百万円
	(2) 移動距離・時間短縮便益	百万円	2,401 百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	- 百万円	5,402 百万円	0 百万円
B / C			2.16	

【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等)

費用及び便益は社会的割引率(4%)を考慮した値でB/Cを算出した。

また、分析根拠は「港湾投資の評価に関するガイドライン1999」(港湾投資の社会経済効果に関する調査委員会編1999)に拠る。

【費用対効果分析における特記事項】

- ・ 仏ヶ浦への乗り入れが観光船にシフトすることにより、下北半島国定公園への乗用車による乗り入れが減少し、環境への負荷を軽減できる。
- ・ 再評価時には費用対効果分析は行っていない。

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A) ・ B ・ C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 防波堤の構造・断面採用に当たっては、構造形式を経済比較し、最も経済的な現場打コンクリート方式を採用した。	(a) ・ b
代替案	【代替案の検討状況】 3タイプの構造形式を安全性、環境性、経済性の面から比較した結果、コンクリート方式を採用しており、代替案は無い。	(a) ・ b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A) ・ B ・ C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 地元及び近隣自治体より要望を受けている。また、仏ヶ浦への来訪者は年々増加しており、ニーズは高い。	【住民ニーズ・意見】 仏ヶ浦への来訪者は年々増加しており、利用者のニーズは高い。	(a) ・ b
環境影響への配慮	【地域別環境配慮指針への対応】 (1) 地域区分 <input type="text" value="S5a"/> (2) 対応状況 <input type="checkbox"/> 配慮している <input type="checkbox"/> 配慮していない	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 <input type="checkbox"/> 配慮している <input type="checkbox"/> 配慮していない	(a) ・ b
地域の立地特性	【特記事項】 仏ヶ浦の優れた景観を破壊しないよう、景観への影響が最も小さい工法を採用している。		
	佐井村は、半島振興法に基づく半島振興地域、山村振興法に基づく山村振興地域、過疎地域自立促進特別措置法に基づく過疎地域に指定されている。 また、仏ヶ浦は下北国定公園に含まれ、自然公園法に基づき、海域の一部は仏ヶ浦海中公園地区に、陸部の海岸地帯は特別保護地区、同地区より東側山沿いは第2種特別地域に各々指定されている。 また、仏ヶ浦一帯に文化財保護法に基づく名称天然記念物の指定がなされている。		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	仏ヶ浦への来訪者は年々増加しており、観光船の航行安全性の向上、乗降客の利便性向上を図るための施設整備を継続して実施する必要がある。			
備考	-			

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき		
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見				
評価理由				